

ピッチを常に最高のコンディションに！
ホームチームが“勝てる”芝生を目指す

九州の星

Star of Kyushu

| 77 |

頑張るあなたを
応援するコーナーです



「ベスト電器スタジアム」 グラウンドキーパー



平田 和子

HIRATA KAZUKO

公益財団法人
福岡市緑のまちづくり協会
公園管理事務所 維持係長
「ベスト電器スタジアム」
グラウンドキーパー

芝生に熱い情熱を注ぐプロフェッショナル

サッカーJリーグ・アビスパ福岡のホームグラウンドである「ベスト電器スタジアム」(以下、ベスタ)。会場に一步足を踏み入れると、鮮やかな緑の芝生が目飛び込んでくる。この芝生を美しく保つために日々奮闘しているのがグラウンドキーパーの平田和子さんだ。

「公園の芝生は冬になると枯れますが、ベスタの芝生は冬になっても緑のまま。実はベスタでは夏芝と冬芝、2種類の芝を育てていて、季節ごとにうまく選手交替をさせているのです」

ベスタではサッカー、ラグビー、アメフト等、様々な試合が開催されるが、競技によって芝の長さも変わる。

「サッカーはボールコントロールしやすいように短く、ラグビーは転倒時の衝撃を緩和する為に長めにしています」

試合のある日は、前日から芝刈りやライン引き、試合前に散水、ハーフタイム中に芝生の補修作業など大忙しだ。

「高校サッカーなど、ベスタに出るのが最初で最後の選手もいますから、芝は常に最高の状態にしておきたいです」

芝生は生き物。疲れていないか、傷んでいないか、病気になっていないか目を光らせ、試合のない日も毎日世話をする。

「ホームチームが勝てる芝生にすることが目標です。芝生を1つの武器として使ってもらえたら嬉しいですね!」



▲芝生の補修作業をする様子



▲仕事仲間と一緒に記念撮影